たんドりく に人之 に初島 嬉で島三く話キレ残二仲はで五 ししに日さしドでり日良中あ月かかは目んてキ、四目く之り三 つ授なはの仲しそ島はな島ま十 た業い、星良まれの、るのし日 た業い た業い 生尽よるい こうこうでをも歴をくしと人午こ人たか す受の史見なた同た前とた 。 。 。 けに民るる 。 時ち中がち一六 学らつ俗ここでにがはでと日月 んれい資ととも緊集中きし目二 だなて料がが、張ま之まやは、 こいも館でで五もり島しべ とけ知やきき・しまのたれ僕で をれるトまま六てし人 また 生ど、とうたたちとしたがあいましたが、とうたったものである。 せち七 ん口島 で之集 まきたま授 て六での し島合 たっ。り業 たっ。り業 い人き体 たと学 が中習、之が きでて験、 た受良 夜け年人受 のにで数け いけか牛 授島あ 天しきのて、 でるつの すこた見 業だり 体でである。 観、友さ正 をけま とで学 でし ≪がすを 小で[°]し 測み達に午 緒行た。

小で

六きいま

本は

当四口

てつし

もた。



また知の島中ででツがた体にき し。るこ村之闇しゴ長。をエま ことの島みたツく温触サしとをこにた。し、かっをた かつをた。 ゚いとをこにた 小 経がしと行い目てかくたや でつやつでがいらてりつト 驗 がきか中て、 し真まだましたカ た。 つせができり、ラー でまり之 きしと島十 ゚黒んゴげし 馬

見かが見カたいみ集り 学つ、学レ。まん団ま 学つ まん団ま五 でたカな「集しな生し月 すでレど作った。 。すーをり学。張を 十 口。作行や習ししし十日 いべでかてま島から 島にでましはしいす村らに一ましば、て。の六 島にでま・は、、て、のかに一すしド、、て、のかいは番。たウただ、中五月は番々。オくん三之・ニ v て ~ の, 中五月 ・ 二 なしマ中ツさだグ島六日 いかネでチんんルに年ま のつギもンのとし全生で たを一グこ打プ員が、 の切番、とちにが集七 の切番 とはる大トを解分そま島 と変カ行けかろり集 て もトきだラい合れつ、合 興力、つ馬まいてたみ学 興力 味ラ目たやしま話時ん習 が馬がの牛たししになが



十島村立 口之島小中学校 児童生徒会新聞 6月30日発行

生来

し己ま

生

たまチ

てはであ



が介たは英 、 を 、 語 レーツ昼 語五 とたムカ休上して。レースエナ 初を月 と「み手ま て め教_ ŧ をはにし てえ十 でた先 き [°]生 楽 に三 し君君ま 来日 かチァし 《つーーた しし 元、 小たムム。先た緊英生れ ・ボで 生。張語にま ・で今し てに す勝試 が しで会し ま自いた先 ち合 好

サ

まを先き



りると て先ですとビでたし五とでまーT も生の °がン 、 °た・てしし日の五 たくきまも生の たくさまも生い かく いらにた良と数発でゴ楽とり六もたた目 でいは かーを音きゲして、年嬉が。は すト、 つ緒英のたーくも発生し、私、 か一を音きゲして、年嬉 つ緒英のた」くも発生し は す。上 たに語練のム学面音とか発は言先三 にろ先と楽で習でで習白の中つ音知葉生日 発い生思し言でとはがい練学たがつのと 発い生忠し言くこ、 音ろがいくいはて、でゲ習生で上てこ四一 でないまでま、も二き」をです手いと強十 ・ - 信回まムし数。にたにを四 小 るにつたたたかし優しだたの二なこつし日 らか勝たつりゲ日つといまに、 二つす。たし「目たばてし、 よ褒し 0 うめや

までこに しを

十たる特のまムはのか学たA までこに しを、でりび。L

 \mathcal{O}



わの痛



でんととに

はなもて小

土と話も宝

星たすび島

なくのつを

どさがく除

にい

受ま今

けし回

ったは う。中

ち最之

い待船れ

ま浜

けす釣西は港をつ児十てして で集はて待物で岸 こな浜てなりり県村よ うれど港もらまがののか昔 にかをはあずしし避港つの今港しら楽、り、たつ難のた様とのたもし船が安。か港中で子違昔 めをた心波りにですをうの る使いしがと指も[°]知点様 い めをに心吸 / ときる使いしがと指も 知点様 かって高し定 まるが子 いいいとと船くてさ口たこ多を まなのきだをていれ之今といイ し港場だと利もるて島回がこと たをでけ思用ほといとのでとタ 保もでいでといる宝調きにビ つあはまきんソい品... てりなしるどこではで、きし 、たの歩と、鹿、とまし



野四は俺をつたてくして、 り之とに知く島島もたみ西す落そいたを牛すさた合がま現し港今 な浜てなりり県村よ。て之。はこまなフやるらた所接し在た」月 今でしけ エ 荷 い に 、、 し し ー リ ら よ た れ リ 物 で 昔 、 し し そ リ ら く 。 ば ー な は 、 五 た て の の と か か 前 と のの 昔タ のモ も貝今いにこ 家をのけ載をく 前新に聞こ 、 **かせ運、さにしそはし 、 だいう、ま 様ト 子ユ にリ 多つ電いるび沖んダいう、まくて所のに、にがイ岸でダが つ調 くて所のに にかった、´ ていのでは沖停小バ壁すイ接 、゛、、ヾヾ泊学ーと ゚バ岸 い査 て、隊 バで泊学しと は

鰹そり全ン船し生ハ待今¹し 節うの島ドにてのウ合のハて をで海をで引い頃ス所ダウい 作す岸ま持きまはにがイスるっ。 はわち上し、なでバの港 。はわち上し たま砂る上げた今つき | 正はりた浜のげて のたて八面、 りた浜のげて でにていそよそ使うに約、二いたのううわスあ三 す るそ 日まそたにでればる十 人の 岸年 くそ壁前 なのにに つ頃定作

う浜ちつを荷舟接

頑らっ

張れた

П

之

さ島

んの

に玄

イ関

ンロ

タで

ビあ ユる

] _

を西

し之

ての期ら

さむさにまけず

000000







///3



りせるたれせロさ声 ら当 、て方、かんのれのこいの で日三 充いの三らが方た大の辛方な混目日 実た大日頑、の点き三いもかぜの間 しだ変間張少よがさ日仕 ゙なてわの たきさでりしうたや間事一かいさ中 や魚たでにく素をだ地進るびで 日と楽関いもはさ早通そ獄みと作一 間てし係と近難んいしうのまきり番 こりいつ事まるかまなプ で鼻 としにわた し験てしたうした `の たに学て °にれ °驚方 言た。 来さ作 たに学て Š るび業 なばいまこまプかの く担のをは

良作の話 いり商に五 体で品な月 験は作り三 りま十 が で今のし-きま手た日 まで伝 ゚は し知い絶 たらを対鹿 なしに児 かま体島 つし験中 に程とと つののい いーなう てつい事 `業 学の べ昆企所 た布業に

の巻秘お

でき密世

をかんた

かかななて年 らずつが、初

思た海つくしく

ま次らずつが

るたう

ははりも

暖とし

小いも

がく

回四

しに出にてら入め

た水よ泳きだろて

泳うげまんうの

をとるしだと水

すしよたんし泳

とと頑何いもし

きき張回と入ま

三日寒でをとけは

深てを

これし

ま泳ろなた。

ぐにか

少

習くた初

ど

たにまるきでれ魚店ま 事世店まの 。何しよ直すかさにし五が話、し三五 度たうし。らば魚た月しに鹿た泊月 度たうし。らば魚も。にを魚自きを共 並普ししの分で並そ十すつ島僕日十 で段なま並ではべこ九くた中は、日 直店いしべ釣、るで日、話さ水鹿十の しでとた。方つ自仕は、話さ水鹿十の しでとた方つ自仕は、話さ水鹿十の て見見。でた分事魚三しん産児島上 いて栄担は魚のなの十やがと島村り に知ど配日すとい中中便 、らを達はかてう央学か 、自な体の、つも所卸校ら るいえ当 んるがの魚 だ魚悪方が自な体の なもくに上分い験手限た面で売連五と、な、向でやさ伝元で白お市合月 い見る「きさりせい鮮すい世場職三う栄か魚にば方てや魚 。方話魚場十 こえらはなけがい魚店 々に類体一 とがね顔るるあたをに に良[°]がよよっださお だな市験日つり場学の に良。がよよったこ 気く」上ううたきば世 ニュート たまと習下 付なと向何にのまく話 のし隈がり きる言き回しでし仕にまなった。 でた元行便 鮮わの

仕お魚れ間 き以を一て れ上掘つ の六 れ上畑つ いハ 担相 いれ 植るの、 土 当 日 当 は、 で これ なるが、 土 れ に これ なる が かった これ いった をこ難みセ \mathcal{O} 咲としんン青土 かがかなチ空曜 せでつで間ガ授 てきた植隔|業 ほまけえでデの ししどて苗ン三いた。いたで時 いた いた いを い を 置 し 間 こんまいた目 れなして かでたいま ら協[°]きず花 ぐ力少まメ植

且

∝んしししジえ 小ぐて土たヤを 二ん三が。 一し ヤを 伸百硬そにま 三くれ合し 十てかわた

みが水よ嬉入の土植マり できやくしれががえリま六 すれり育かてと硬ましし月 いにつつやてくしゴた十 に行よたるもてた l 。日 咲きうでと難 。ル僕土 くたにす上し平花ドは曜 手から植な青日 のい ≪がで青植くつにえど空に

す空えでたすを三ガ、 。ガたきでるす種一花 もえデがの し花に気 をるにを

しうれな置いこ



て植し花たすのる類デ植 。ととのンえ 楽たン元で力掘き花でがあるとなった。

でもして いな しがも いり最 本穴らせ



をし出らムき作人すんき 便たて、ラるりに °がり でよを く便たて がり僕 こな利いし本ンバたなそ発との うし なてれるにでま当をツいりし明は将 それるにじょヨをインカになるにいって、かましすうに打って、ト物たて、になって、いって、になって、なったに、もうムとでは、で何るでいった。でしたと発ったとと発っているという。 小 兀 り立んいし道明ンつホも僕作とまは たて勉でや具をがたしでがるでせつ

いくかたに

かつはて同

なげの大思らた病あじ小なれなはきつ、の院げよさり僕 すれなはきつ、の院げよさり僕。るの、くて病でのたうくたは、 よで病ない院恩人いな生い `院るまで返にか子まで病 う にものこす働しおらどれす院 頑っ先と 。きを世でもた 。で 張と生がこたし話すをか理働 , 。 助 ら 由 く り大のでんいたに たきおきなといな僕け は人

とはたるかが天がに て最。と<u>つ、気あ</u>、 にのとを以少し思 つ実て最 頑目て Of as an experience of con W 記事の Q Q 事の中に正解 3)トカラ馬の ②星空観察 ・カレー作り を登るで 321 ↓集♡ ③②①は現 321辛職 民郵待何在 わ昆魚か場 ト星力か合い 宿便合にの さ布さっ体 解が書い 局所使夕 わイ 0 書いてあり はで何 は何でしが りま は 」がっ 0 以 व B 楽 B and Das office of a suffer son

張標もしか難たた際も初で体た海はり今

りを上つらし。よに温だも中でのもま年六 た達手かいそ初り泳かけ、がす水つし第月

た達手かいそ初り泳かけ、がす水つし第月 い成でりたうめ上いくでそ凍。はてた一十 ででし覚人でて手でな、うり肩とく。回四

小すきたえはし泳くみり慣思そまてれど目日 三 °る °て泳たぐ泳るまれつうでもまうの水

よ自いぎが人げとしるたで浸冷しに水曜う分て方、はま、たとのしかたたか泳日にのとを以小し田。とはたるかが王がに

≪ででし覚人でて手でな